

令和2年

10/24

14:45
15:45

佐賀県立博物館・美術館前ほか

かわらばん

今年のテーマは「医療」

第3回

～みんなで佐賀支え愛～

さが維新まつり

医療従事者への感謝を込めて

佐賀の偉人・偉業を顕彰し、その「志」を未来へと繋いでいくため、明治維新150年の節目となる2018年に創設された「さが維新まつり」。第3回となる今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催規模を縮小し、佐賀さいこうフェスのプログラムの一部として行う。今年のさが維新まつりでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に尽力している医療従事者へ感謝と敬意を表そうと、佐賀から日本の医療に新たな風を吹き込んだ偉人たちにスポットを当てる。

コロナ禍で、さまざまなイベントが中止となった中、少しでも佐賀を盛り上げたいという思いで開催を決めた。県の担当者は「佐賀支え愛」の心で、さが維新まつりを楽しんでもらえたら」と話す。

今年のさが維新行列に登場する偉人たち

鍋島 直正 佐賀藩10代藩主。佐賀を幕末有数の雄藩に導く。佐賀藩10代藩主。弘道館を拡大し、優秀な人材を育てた。また、鉄製大砲も作った。佐賀の七賢人の一人。	伊東 玄朴 佐賀で種痘を実践。日本近代医学の祖。江戸末期の蘭方医で、シーボルトに西洋医学を学び、天然痘を予防する為の種痘を導入した。1871年死去。	相良 知安 明治政府のドイツ医学採用に尽力。医学家で学んだことをきっかけに学問のおもしろさに目覚めた。蘭方医として直正のおかかえの医師となった。	佐野 常民 日本赤十字社の前身、博愛社を創設。日本赤十字社を創建。日本美術の保護などで活躍した。さらにいろんな場面でリーダーシップを発揮した人物。	枝吉 神陽 「義祭同盟」を結成。佐賀藩内に尊王思想を説く。天皇中心の政治を目指すとする組織をつくり、明治時代に活躍する佐賀の若者に影響を与えた。
島 義勇 札幌の礎を造った「北海道開拓の父」。北海道開拓の父である島義勇は世界一の都市を目指し、札幌の町の基礎を築いた。北海道の人達からも愛されている。	副島 種臣 参議、外務卿。書家としても有名。日本の江戸時代末期から明治時代の佐賀藩の政治家、書家。明治天皇から贈られた大金を苦しんでいる人のために使用してほしいと受け取らなかった。	大木 喬任 初代文部卿として、教育制度の確立に貢献。東京府知事、司法卿としても活躍。1871年初代の今の文部科学大臣となり、教育制度の整備に力を尽くした。また、法務大臣にもなり民法の基礎を築いた。	江藤 新平 初代司法卿。近代集権国家の基礎をつくる。日本で初めて今の法務大臣となり、平等にさせるように法律をつくった。佐賀の七賢人の一人で、国で大活躍した。	大隈 重信 総理大臣に2度就任。早稲田大学の創設者。大蔵卿、外務卿などの要職を歴任し、総理大臣も2度務めた。また、1882年に後の早稲田大学を創立した。

これまでさが維新行列に登場した偉人たち

鍋島 直茂 佐賀35万7000石の藩祖。鍋島直茂は龍造寺氏の有力な家来でした。豊臣秀吉から長崎代官を命じられ、朝鮮出兵にも参加した肥前佐賀藩の藩祖。	山本 常朝 鍋島武士としての心得『葉隠』を口述。1659年に生まれ、子供の頃から藩主鍋島光茂に仕えた。後に佐賀藩の歴史や、武士の心得などを陣基に語った。	田代 陣基 山本常朝の語る『葉隠』を書き記す。19歳で3代藩主綱茂に、さらに4代藩主吉茂にも仕え、文章を作成する役割を担っていた。葉隠を記録した。	盛 姫 鍋島直正の正室。盛姫は11代將軍家斉の娘で15歳で直正に嫁いだ。若くて藩主になった直正を支え37歳の若さで亡くなりました。	貢 姫 鍋島直正の長女。鍋島直正公の第一子として生まれ、17歳で嫁いだ。手細工が得意で80歳で亡くなるまで様々な遺品が残っている。
鍋島 茂義 武雄領主。佐賀本藩に先駆けて蘭学を導入。佐賀藩9代武雄領主。幕末期の佐賀藩の高度な軍事力・技術力開発のさがけとなり、軍備の近代化につくした。	鍋島 茂真 佐賀藩執政。鍋島直正の藩政改革を助ける。直正のお兄さん。佐賀藩の執政をやっている佐賀の近代化に大いに貢献した中の一人。大砲をつくった。	鍋島 直彬 最後の鹿島藩主。初代沖繩県令。鹿島藩13代藩主。維新後初の沖繩県令になった。学校もつくり育英事業につくした。	古賀 穀堂 鍋島直正を教育した儒学者。教育改革の基礎を整備した。弘道館教授で七つの自警や学政管見をきっかけに直正に信頼された人物。	辰野 金吾 東京駅、日本銀行本店などを設計。金吾は武雄温泉樓門や東京駅などを設計したすごい人。曾瀬達蔵と友達だった。そしてイギリス人建築家コンドルの弟子。
曾 彌 達蔵 東京・丸の内オフィス街の基礎をつくる。コンドルに学んだ日本人建築家の第1期生。後輩の中條精一郎とともに設計事務所を開設し、近代建築の基礎を築いた。	志田 林三郎 日本の電気工学の草分け。電気学会を創設。電気工学者で、19世紀後半にあって、今日の電気通信システムのほとんどを予見した先学者でもあります。	黒田 チカ 科学分野で日本初の女性理学博士。1884年に生まれ、東北帝大に入学し、有機化学を研究した。紅花の色素構造を研究し、着色料を作った。	中 富 三郎 久光製菓の前身、久光兄弟合名会社を設立。明治9年～昭和32年の実業家。明治36年に、後の久光製菓を設立し、サッポロを開発しました。	市村 清 リコー三愛グループの創業者。市村記念体育館を佐賀県に寄贈。人を愛し、国を愛し、勤めを愛す精神でサガテレビの創立にも力を入れたアイデア経営者で経営の神様と呼ばれた。
江 崎 利 一 江崎グリコの創業者。栄養素を活かした、日本を代表するお菓子メーカー江崎グリコの創業者。たくさんの工夫が詰まったお菓子がある。	森 永 太 一 郎 森永製菓の創業者。「お菓子の王様」と呼ばれ、お菓子作りの最先端を走った。日本に西洋菓子を取り入れた森永製菓の創業者。	田 澤 義 鋪 青年団運動に生涯をかけた「青年団の父」。社会教育や公明選挙、労使協定運動などたくさんの活動をした。日本青年館理事などの大切な役割もになった。	下 村 湖 人 小説「次郎物語」の著者。佐賀生まれの小説家。教育家でもある。次郎物語を書き、さらに大日本連合青年団講習所の所長にもなった。	中 林 梧 竹 明治時代を代表する書家。「明治三筆」の一人。佐賀藩の支藩、小城藩生まれで書家。梧竹は連綿書などの作品を作っていた。山内香雪に師事。87歳で死去。
石 井 亮 一 日本の知的障害児福祉・教育の創始者。日本で初めて知的障害者のために福祉・教育施設を作った人でヘレン・ケラーと会ったこともある偉大な人物。	石 井 筆 子 夫・亮一とともに知的障害児福祉・教育に尽力。佐賀藩11代藩主であり、最後の藩主。父直正が進めた科学技術の研究を引き継ぎ、佐賀の人材育成に貢献した。	鍋 島 直 大 最後の佐賀藩主(11代)駐イタリア特命全權公使・侯爵。佐賀藩11代藩主であり、最後の藩主。父直正が進めた科学技術の研究を引き継ぎ、佐賀の人材育成に貢献した。	鍋 島 栄 子 鍋島直大夫人。篤志看護婦人会会長。鍋島直大の妻で直樹の母です。京都で生まれ明治20年から日本赤十字社篤志看護婦人会長として活躍しました。	

※34名の偉人たちの説明文は、平成30年度に卒業した佐賀大学教育学部附属小学校6年1組の児童の皆さんがグループ学習で調べ、まとめたものです。



さが維新まつり御来場の皆様へお願い

- 会場内では、マスク着用や消毒等、基本的な感染防止策の実施に御協力をお願いします。
- 会場内では大きな声を出したり、他の参加者に密接することがないように御注意ください。ステージへの声援も、今回は「拍手」をお願いします。
- イベント御来場中に発熱や体調不良を感じられた場合はすぐに会場スタッフへお知らせください。状況によっては御帰宅をお願いする場合があります。
- 万が一、御来場者の新型コロナウイルス感染症が確認された場合は、管轄保健所へ来場者情報の提供を行う場合があります。
- 会場内の様子は写真や映像で撮影し、今後の広報事業に使用させていただく場合がありますので御了承ください。

協 賛

久光製薬(株) (株)サガテレビ

松尾建設(株) リコージャパン(株) 九州電力(株) (株)佐賀銀行 (株)佐賀新聞社 第一生命保険(株)佐賀支社

(有)西野企画 (株)エンターアイ 小糸九州(株) 佐賀ガス(株) (株)佐賀広告センター (株)佐賀電算センター 佐藤食品工業(株) (医)春陽会 上村病院 セキスイハイム九州(株)九積支店 竹下製菓(株) (株)丹青社 (株)中野建設 (株)ナラン 富士警備保障(株)

(株)アイワン (株)イーダブリュエムファクトリー 伊万里市農業協同組合 (株)エスプロジェクト 唐津農業協同組合 くろまふクチャリソングジャパン(株) 佐賀工場 (株)SUMCO九州事業所 (株)ジェビック 誠文堂印刷(株) (株)ソクト 高津製菓美術(株) Design446 TOWA(株) 西日本電信電話(株)佐賀支店 (株)ビープラス モローゼ佐賀 祐徳自動車(株) (株)フイアフロ (株)フイアビーム JA佐賀連佐賀 JA佐賀南佐賀 JAさが JA佐賀中央会	味の素(株)九州事業所 (株)エフエム佐賀 佐賀銀行政審士会 佐賀県土地改良事業団体連合会 佐賀県信用組合 大田メタル佐賀(株) (株)中村建設製作所 (株)平和マート 大和通産(株) (株)大隈記念早稲田佐賀学園 佐賀県有明海漁業協同組合 佐賀玄海漁業協同組合 佐賀県漁業信用基金協会 (株)佐賀県農産物振興センター (株)ブルーム (株)令和 池田法律事務所 レグナナック(株) (株)JAQUAPASS (株)アクト (株)梓書院 (株)永楽園 (株)エヌワイ企画 (株)エムスクリーンサービス	(株)かわでん 九州精密工業(株) (一社)佐賀県医師会 佐賀県火災共済協同組合 (一財)佐賀県環境科学普及協会 (公社)佐賀県看護協会 (公社)佐賀県建設士会 (株)高野建設土木 佐賀県酒造同組合 佐賀県酒造同組合 佐賀県商工会女性部連合会 佐賀県商工会青年部連合会 佐賀県製菓協会 (一社)佐賀県農産物振興センター (公社)佐賀県長寿社会福祉財団 (公社)佐賀県トラック協会 佐賀県美容室生活衛生同業組合 (一社)佐賀県薬剤師会 (株)サガシキ 佐賀市中央農業協同組合 佐賀シティビジョン(株) (株)ふんふんテレビ	佐賀酒類販売(株) 佐賀商工会議所 相良 隆弘 (株)サガン・ドリームス JSRマイン九州(株) 全国共済水産産業協同組合連合会 全国共済水産産業協同組合 佐賀支所 佐賀県酒造同組合 中央タクシー(株) (株)鶴松通商建設 (株)鶴屋菓子舗 (株)永原学園 日本船舶保険組合 佐賀支所 日本赤十字社佐賀県支部 (株)藤田緑化建設 (株)ミズ 宮島醤油(株) (株)山本海産物佐賀工場 (医)Y.T. 美川眼科
---	--	---	--

主催:さが維新まつり実行委員会(事務局:佐賀県文化課内)

〒840-8570 佐賀市城内1丁目1番59号

佐賀県友好青年5団体(佐賀県中小企業青年中央会/佐賀県商工会議所青年部連合会 佐賀県商工会青年部連合会/日本青年会議所九州地区佐賀ブロック協議会/佐賀県農協青年部協議会) 国立大学法人佐賀大学/公益財団法人佐賀県芸術文化協会 一般社団法人佐賀県観光連盟/佐賀市/佐賀県

TEL:0952-25-7253

✉ culture_art@pref.saga.lg.jp https://www.saga-ishinmatsuri.jp/



佐賀県立博物館50周年特別展「THIS IS SAGA」

この冊子を県立博物館特別展受付で御提示いただくと

800円→500円で御覧いただけます。

※10/24(土)・25(日)限り有効(博物館開館時間 9:30~18:00)

佐賀から日本の医療に

新たな風を吹き込んだ

偉人たち



幕末期、佐賀が先端を走っていたのは、大砲や蒸気船造りだけではない。
医療の分野でも先進的な取組を行っていた。

第3回さが維新まつりでは、10代佐賀藩主鍋島直正をはじめ、
佐賀から日本の医療に新たな風を吹き込んだ偉人たちに
スポットを当てたプログラムとなっている。

佐賀藩近代化のリーダー

（＝行列出演者）

鍋島 直正

佐賀県知事 山口 祥義



公益財団法人鍋島報効会所蔵

[1814(文化11)年～1871(明治4)年]
10代佐賀藩主。西洋医学の先進性を重要視した直正は、1834(天保5)年に医学寮を設置。1851(嘉永4)年には蘭学寮を設立し、佐賀藩での本格的な蘭学教育を始めた。また、同年、現在の医師免許制度のさきがけとなる「医業免札制度」を開始した。
天然痘が大流行した際には、伊東玄朴らの勧めで、牛痘苗(ワクチン)をオランダを通して取り寄せさせ、佐賀城で世継ぎの淳一郎(直大)に接種させた。その成功により、種痘は領内に広まり、やがて全国に普及する契機となった。

近代医学の祖

伊東 玄朴

佐賀大学医学部 国際医療学講座 教授
青木 洋介

[1800(寛政12)年～1871(明治4)年]
16歳で漢方医学を学び、23歳で佐賀の蘭方医島本良順に、翌年から長崎でシーボルトに学ぶ。
1826(文政9)年、江戸に出て、1833(天保4)年に蘭学塾象先堂を開き、門人を育成。1843(天保14)年、10代佐賀藩主鍋島直正の侍医となり、天然痘予防の種痘の必要性を直正に進言。1849(嘉永2)年、直正は我が子に接種させ、江戸では玄朴が種痘を広めた。1858(安政5)年、玄朴らが神田に設立した「お玉ヶ池種痘所」は、のちに東京大学医学部に発展し、近代医学の礎となった。

日本にドイツ医学を導入

相良 知安

5代目子孫 相良 隆弘



[1836(天保7)年～1906(明治39)年]
蘭方医。日本にドイツ医学を導入した功績者。藩校・弘道館から蘭学寮、医学寮(のちの好生館)で学ぶ。
1861(文久元)年、26歳で佐倉(現在の千葉県)の「順天堂塾」に入門し、蘭医学を学び、塾頭として頭角を現す。その後、長崎で蘭医ボードインに師事。10代佐賀藩主鍋島直正の侍医となり、1869(明治2)年、明治政府の「医学校取調御用掛」を命じられ、ドイツ医学の導入を主張。イギリス医学派の反対に遭いながらも信念強く主張を続け、最終的にドイツ医学の導入が採用される。
1872(明治5)年、第一大学区医学校(現・東京大学医学部)の初代校長となり、「医制略則」を起草。今日まで続く近代医学制度の礎を築いた。

日本赤十字社の父

佐野 常民

幕末 維新 佐賀の八賢人おもしろし隊
鷹巢 将弥

日本赤十字社蔵

[1822(文政5)年～1902(明治35)年]
子どもの頃に、藩医・佐野常徴の養子となり、医者を目指した。大坂や江戸で緒方洪庵、伊東玄朴らの門弟となり、蘭学、医学などの学識を広め、精煉方や三重津海軍所などでリーダーシップを発揮。
1867(慶応3)年のパリ万博、1873(明治6)年のウィーン万博に参加し、西欧の先進的な知識・技術等の習得に努め、同時に各国に赤十字社が組織されていることを知る。1877(明治10)年の西南戦争の惨状に心を痛め、博愛社(のちの日本赤十字社)を創設し、敵味方の区別なく負傷者を救護した。

今回、佐賀県医療センター好生館の皆さんにも御参加いただいています。

【館長】佐藤 清治
【感染制御部 部長】福岡 麻美
【救命救急センター長】岩村 高志
【呼吸器内科 医師】桑原 雄紀
【看護部 長】佐伯 悦子
【看護師 長】池田 恵子
【看護師】水田 麻美
【看護学生】4名



鍋島直正の直筆による「好生館」扁額



明治34年改築当時の本館病棟

好生館は、1834(天保5)年10代佐賀藩主鍋島直正により医学館・医学寮が創設されたことにはじまる。「好生の徳は民心にあまねし」(人の生命を大切にする徳を万人にゆきわたらせる)を理念としている。この理念は、180年を超える好生館の歴史において途切れることなく伝えられている。

好生館

「好生」の理念を
今に受け継ぐ

タイムテーブル

14:45～14:55

出発式

佐賀城鯨の門前

🎌 さが維新おどり 🎌 増田敬太郎山車の披露
🎌 行列出発

14:55～15:45

行列入場・ステージ

佐賀さいこうフェス会場

(佐賀県立博物館・美術館前)

🎌 行列入場 🎌 葉隠太鼓 演奏 🎌 さが維新おどり
🎌 医療関係偉人等の紹介 🎌 歴史寸劇

※タイムテーブルには若干の変更が生じる場合がございます。



増田敬太郎山車

唐津市肥前町高串地区でコレラの終息に尽力した増田敬太郎巡査。
毎年7月には増田巡査の人形を乗せた山車が高串地区を練り歩く例大祭が行われている。第3回さが維新まつりでは、疫病退散の願いを込め、その山車を佐賀城鯨の門前に展示する。

展示期間

10/23(金)夕方～10/25(日)まで

展示場所

佐賀城鯨の門前



増田 敬太郎
熊本県出身で唐津警察署に配属される。唐津市肥前町高串地区でコレラが流行した際に、不眠不休で防疫活動に懸命に従事し、地区に入って3日後、遂に自らもコレラに感染して倒れる。「高串のコレラは私が全部背負っていきますから、安心してください。」と言い残し、25歳で殉職。死後、高串地区のコレラは終息し、増田巡査の献身的な行為に感謝した地区の人々により増田神社に祀られている。

ブルーライトアップ

新型コロナウイルス感染症と最前線で戦う医療従事者への感謝と敬意を表すため、ブルーライトアップを行う。 期間 11月1日(日)まで(18:00～22:00)

場所 鍋島直正公銅像、佐賀城鯨の門、サガテレビ前、島義勇銅像



歴史寸劇「民より先に。～2020 維新まつり Ver.～」

～はやり病と災害と闘った佐賀の偉人たち～

◇出演 敬称略◇

鍋島直正(山口祥義)、伊東玄朴(谷口文章)、相良知安(西正)、佐野常民(鷹巢将弥)、大石良英(浦川忠敬)、古川松根(石丸聡史)、筆姫(かくもとしほ)、淳一郎(姫野真護)、脚本/桜井篤 演出/青柳達也



直正公銅子淳一郎君種痘之図

さが維新おどり

幕末維新期の佐賀の偉人たちの「志」を未来に繋いでいくというコンセプトで第1回さが維新まつりの時に誕生した「さが維新おどり」。日本的な和の踊りに、現代的なダンスの要素を組み合わせ、躍動感あふれる楽曲と振付で踊る「本おどり」を披露する。

葉隠太鼓保存会

一度途絶えてしまった地元の太鼓浮立を復活させるため有志が立ち上がり、牛嶋天満宮を拠点とし、昭和50年結成。さが維新まつりでは、太鼓の力強い音色でまつりを更に盛り上げる。

